

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月13日

【評価実施概要】

事業所番号	270600307
法人名	有限会社 ケアサービス十和田イースト
事業所名	グループホーム たかしずの森
所在地 (電話番号)	〒034-0041 青森県十和田市相坂字高清水78番地54 (電話) 0176-22-0150

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 12月 3日	評価確定日	平成 21年 1月 13日

【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14人, 非常勤 2人, 常勤換算 15.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての 1階 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	10,000 ~ 冬期11,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 980 円			

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	0 名	要介護2	6 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	70 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石川医院、ふくい歯科クリニック
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅街にあり、目の前に駅やコンビニがある。2つのユニットの内装はそれぞれ和風と洋風の落ち着いた造りになっていて、食堂や共有スペースもゆったりと過ごせる空間になっている。玄関手前には利用者が飼っていた犬がいて、犬の世話もみんなで行っている。ソフト面でも、外部研修や資格取得に力を入れており、自主的に希望する研修等にも事業所として支援をするなど、職員の意欲向上につながっている。さらに、他法人福祉施設より行事に利用者職員が参加したり、管理者の自宅で採れた野菜を他グループホームに差し上げたりして、他事業所との交流ができています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で課題となった項目に関しては、改善されている所もあるが、現在も検討中の項目もある。しかし、管理者並びに職員も改善点を自覚し解決に向けた取り組みを行っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が評価したものを職員が再度確認し、新たな課題の抽出がなされている。その他、職員も日頃のケアに気づきがあり、その都度話し合いがされている。自己評価並びに外部評価の結果は、運営推進会議で報告し、また家族にお知らせしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、管理者や職員・利用者・家族・町内会役員や民生委員・行政担当者も参加して開催し、意見交換や、その場で行政側からの助言等も受けている。今後は、さらに認知症への理解を深めてもらうために、運営推進会議内において町内会の方々向けに研修会も計画している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	家族が面会に来た時など、職員が声をかけて意見や苦情、要望を聞いている。しかし、その記録が残っていないこともあるため、今後は、記録の整備をすることでその後のケアに行かせる体制作りを期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所の管理者が町内会の役員もしているため、町内との連携をとりやすい。地元の小学校や近隣の福祉施設とも交流があり、行事などでは互いに行き来をしている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から管理者が理念を掲げており、職員一同今も同じ理念のもと日々のケアを行っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新採用職員にも最初に理念から説明している。その後は、毎朝の朝礼で理念を確認し、理念の他にも”ケアスタッフ心得”を作り、理念同様に復唱して日々のケアで実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地区小学校の学習発表会や運動会に利用者が参加したり、近隣の福祉施設とも行事などで行き来したりしている。管理者が町内会の役員もしているため、町内会との連携をとりやすい。町内の集まり等で認知症について話をしたりする機会があり、普及活動にも積極的に取り組んでいる。 地域からは、プルタブを集めて車椅子を寄贈してもらった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価は、職員も参加して行っており、日頃のケアに関する気づきや見直しに役立っている。</p> <p>毎回、指摘されたことは皆で話し合い改善している。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>町内会長や民生委員に参加してもらい、定期的(2ヶ月に1回)に開催している。その中で、認知症に関する情報の提供や評価の報告を行っている。今年から市の課長補佐にも参加していただいて、現場の実情なども伝える場になっている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村には必要時に相談したり、助言をいただいたりすることで課題の解決につなげている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護事業を利用した利用者もあり、その事をきっかけとして職員間でも研修をしている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>毎年外部の研修に参加し、マニュアル等参考にしながら内部へ伝達研修を行っている。利用者に対しての言動に注意を払っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に必ず見学をしてもらいながら説明をし契約している。 入居後も料金改定などの際は、事前に文書を送付する等、利用者家族には納得して利用していただいている。		
10	12	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、請求書送付時に生活状況の手紙を同封したり、フォト便りを個別作成し送付したりすることで報告している。		
11	13	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に家族と話す機会を持っているが、要望等が記録に残っていない。		些細なことでも記録に残すことで、その後のケアに生かしてもらえるよう期待します。
12	16	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット交換の異動はあるが必要最小限にしている。異動時にはトラブルにならないよう他のスタッフがフォローしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自主的に参加希望のある研修は、自主性を尊重し、参加できるような体制をとっている。 その他の研修は、ローテーションで皆が外部研修を受けられるような体制にしている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人が運営する特養等から行事の案内等をいただいた際は、利用者と職員が参加したり、他のグループホームには、たくさん採れた野菜を差し上げたりすること等で交流が持たれている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心して利用を始められるように、できるだけ本人にも見学していただき、グループホームの雰囲気を感してもらっている。また、本人が使っていた私物を持ち込んでもらうことで、早めに馴染めるよう対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として教わることも多く、調理の味付け等を見てもらったり、中庭にある木々の手入れの仕方などを教わったりしている。 逆に、利用者が落ち込んだりしている時は傾聴している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前の生活の延長線上にグループホームの生活を考え、日々のコミュニケーションの中からそれぞれの思いや意向を確認している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員が担当利用者を数名ずつ受け持ち計画を立てている。 サービス担当者会議も定期的開催しているが、家族の参加がない。</p>		<p>可能な限り家族の参加を促し、意向を反映できるような体制づくりができるよう期待します。</p>
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>以前は6ヶ月毎に見直していたが身体面の変化もあるため、現在は3ヶ月毎の見直しを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者や家族が安心して生活を送れるように、必要に応じて通院や外出の支援をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居前のかかりつけ医が引き続き主治医となり、往診していただいている。 必要に応じて管理者が利用者に付き添い受診することもある。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在の利用者も、日々重度化になっている。そのつど家族と話し合い対応している。今後は、医療連携も視野に入れて検討している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の記録や日誌は全てパソコン管理であり、部外者の目に触れることはない。また、利用者に対する声かけなども、相手を尊重した対応を心がけている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の生活ペースに合わせた支援を行っている。日課で予定されていても、気が進まない場合は臨機応変に変更している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>嗜好チェックを行っており、誕生日には好きなものを1品添えている。その他、食事の盛り付けや片付けは、利用者にも手伝ってもらいながら行っている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>以前は、夜間入浴の希望者もいて対応していた。現在は昼の入浴者のみだが、入浴予定日に拒否や体調不良があった場合は随時変更して週2回の入浴は確保している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>朝の掃除や洗濯たたみ、食事の盛り付けなど、できる利用者には手伝っていただいている。さらに、飼い犬と一緒に入居した利用者もあり、犬の世話も、できる方が手伝っている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>全体としては月に1～2回の外出行事を行っているが、その他は個々に買い物や墓参りなど、できる範囲で希望に沿うよう対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、外部研修に参加することで意識付けをし、内部には伝達研修を行っている。現在の利用者に関しては、センサーやマットを活用することで身体拘束はしていない。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所前の道路においては交通量が多く、外に徘徊された場合は事故のリスクが高い。そのため、モニターやセンサーの利用で鍵をかけないケアができるよう日々工夫している。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議などを通して、町内の方々には災害時の協力要請は行っている。事業所では、職員全員参加にて防災訓練を行っている。職員間の緊急連絡網も作成している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の体調に配慮しながら食事の形態を考慮し提供している。また、毎食事の摂取量や水分チェックも欠かさずに行っている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は、利用者と職員に行っており、MRSA保菌の有無も入居時に確認している。その他、感染症対策として、各種消毒等も徹底している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本館と新館の2ユニットだが、本館は畳敷きにこたつを置いた和風の共用スペース、新館はソファのある洋風な造りになっている。互いのユニット間は相互に行き来ができる。食堂その他も、利用者が楽しく集えるよう工夫している。		
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族にも協力していただき、自宅で使っていたものや馴染みの物を持参していただいている。		

 は、重点項目。